

国際戦略総合特区 **TSUKUBA** から
新たなイノベーションを世界へ！

つくばグローバル・イノベーション 推進機構の取り組みについて

2013年6月26日

目次

P. 1	つくばの現状と課題
P. 2	これまでの経緯
P. 3	つくば国際戦略総合特区のイメージ
P. 4	つくばグローバル・イノベーション推進機構の体制
P. 5	つくばグローバル・イノベーション推進機構事務局体制について
P. 6	中核機関としてのつくばグローバル・イノベーション推進機構
P. 7	つくばグローバル・イノベーション推進機構の機能 (新規プロジェクト創出・支援)
P. 8	平成24年度事業報告及び平成25年度事業計画(案)
P. 9～11	つくばグローバル・イノベーション推進機構の機能 (共通横断的下支え)
P.12	平成24年度の主な行事実績
P.13	平成25年度の主な行事予定

つくばの現状

国際研究開発拠点を形成

- 32の研究・教育機関の集積(我が国の1/3)
- 2万人の研究者(市の人口の1/10)
- 世界最先端の研究設備

これまでの成果

- 200社以上のベンチャー企業の創出
- トンネル磁気抵抗素子(世界シェア98%のパソコン等の記憶媒体)
- ロボットスーツHAL® 等



▲ トンネル磁気抵抗素子



▲ ロボットスーツHAL®

課題と解決方策

課題

- 知的集積の割に、国際的に高い評価を得られるような実績が少ない
- 基礎研究等に重点が置かれ、つくばの研究成果が直ちに新事業・新産業の創出に結び付いた例は、必ずしも多くない

解決方策

- 期限を限って具体的な成果を生み出すための「共通の目標」
- 組織の垣根を越えて連携・協力
- 短期間に新事業・新産業の成果を創出
- 地元自治体も積極的に参画

総合特区で講じられる「規制緩和」や「税制上の特例措置」等を効果的に活用



つくばの科学技術から新事業・新産業が絶え間なく生み出されていく、新しいシステムを確立

これまでの経緯

- 昭和38年9月 筑波研究学園都市建設を閣議了解
- 昭和60年3月 つくば科学万博博覧会開催(～同年9月)
- 平成22年7月 新たなつくばのグランドデザイン検討委員会「新たなつくばのグランドデザイン」策定
- 平成23年9月 つくば国際戦略総合特区地域協議会開催、申請書提出
- 平成23年12月 内閣総理大臣から総合特別区域法に基づく「総合特別区域」として指定
- 平成25年1月 平成24年度総合特区推進調整費を総合特区推進国立大学法人運営費交付金としての配分決定
- 平成25年3月 筑波研究学園都市における新たなコーディネート機関の設立に向けた検討会「筑波研究学園都市における新たなコーディネート機関の設立について 最終報告」策定
- 平成25年4月 つくばグローバル・イノベーション推進機構 機構長就任
- 平成25年6月 戦略会議開催

つくば国際戦略総合特区のイメージ

4つの先導的プロジェクト

選定基準

- ①つくばの強みを最大限発揮
- ②低炭素社会、健康長寿社会の実現など、直面する政策課題解決に貢献
- ③数年程度で具体的成果の見通し
- ④総合特区制度(規制緩和等)の活用が有効

パッケージ化

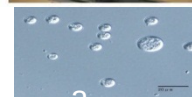
加速器による
がん治療技術



ロボット技術



藻類バイオマス



ナノテク



新たな産学官連携 システム (つくばグローバル・ イノベーション推進機構)

戦略的な会議の
場の設置

共通プラット
フォーム(共創場)

産学官連携・事業化
に向けた専門的支援

国際化推進

人材育成・活用

情報共有・発信

国際競争力の強化

国際標準と
基本特許の確保

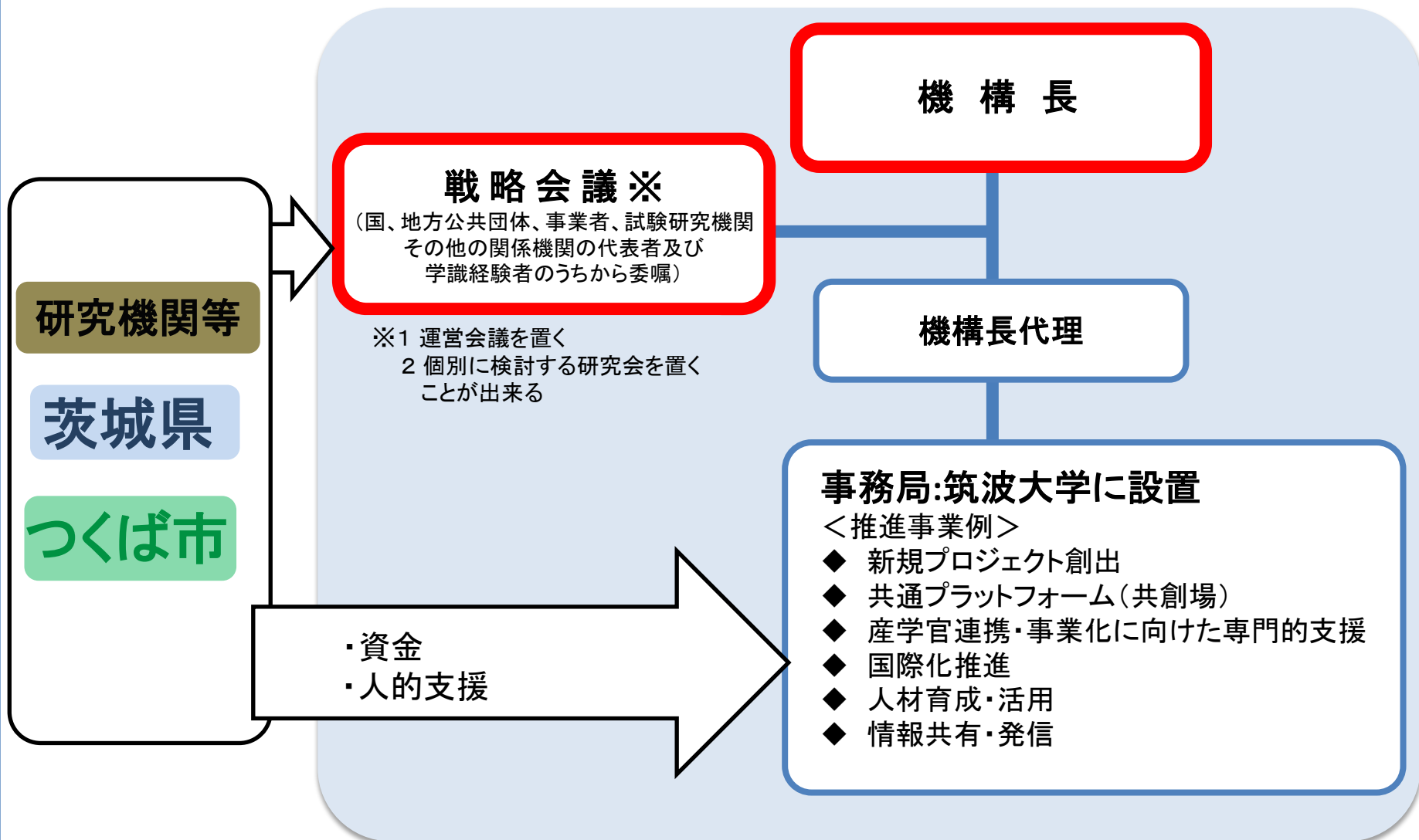
技術実証を通じた
普及展開

世界に通用する
ブランド力の確立

等

**組織の壁を超えた共通の目標を設定し、世界市場や社会システムに
インパクトを与える成果をつくばから持続的に創出**

つくばグローバル・イノベーション推進機構の体制



将来的に法人格取得等(組織改革)を目指す。

【事務局体制】

(平成25年6月1日現在)

・大 学 職 員 14名

(※うち特区調整費8名)

・茨城県職員 1名

(※週2～3日出勤)

・つくば市職員 1名

計 16名



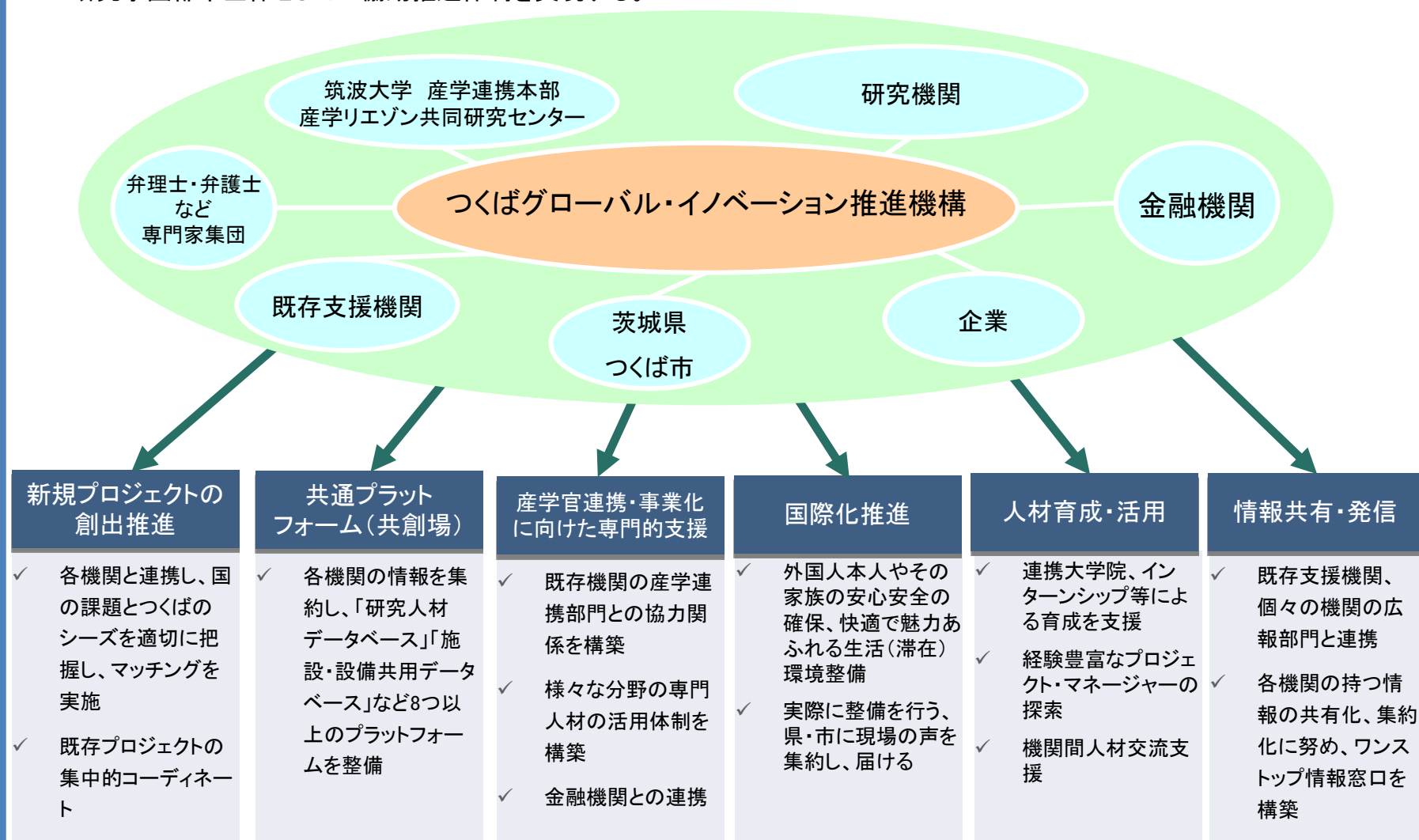
(25年度～)

拡充予定

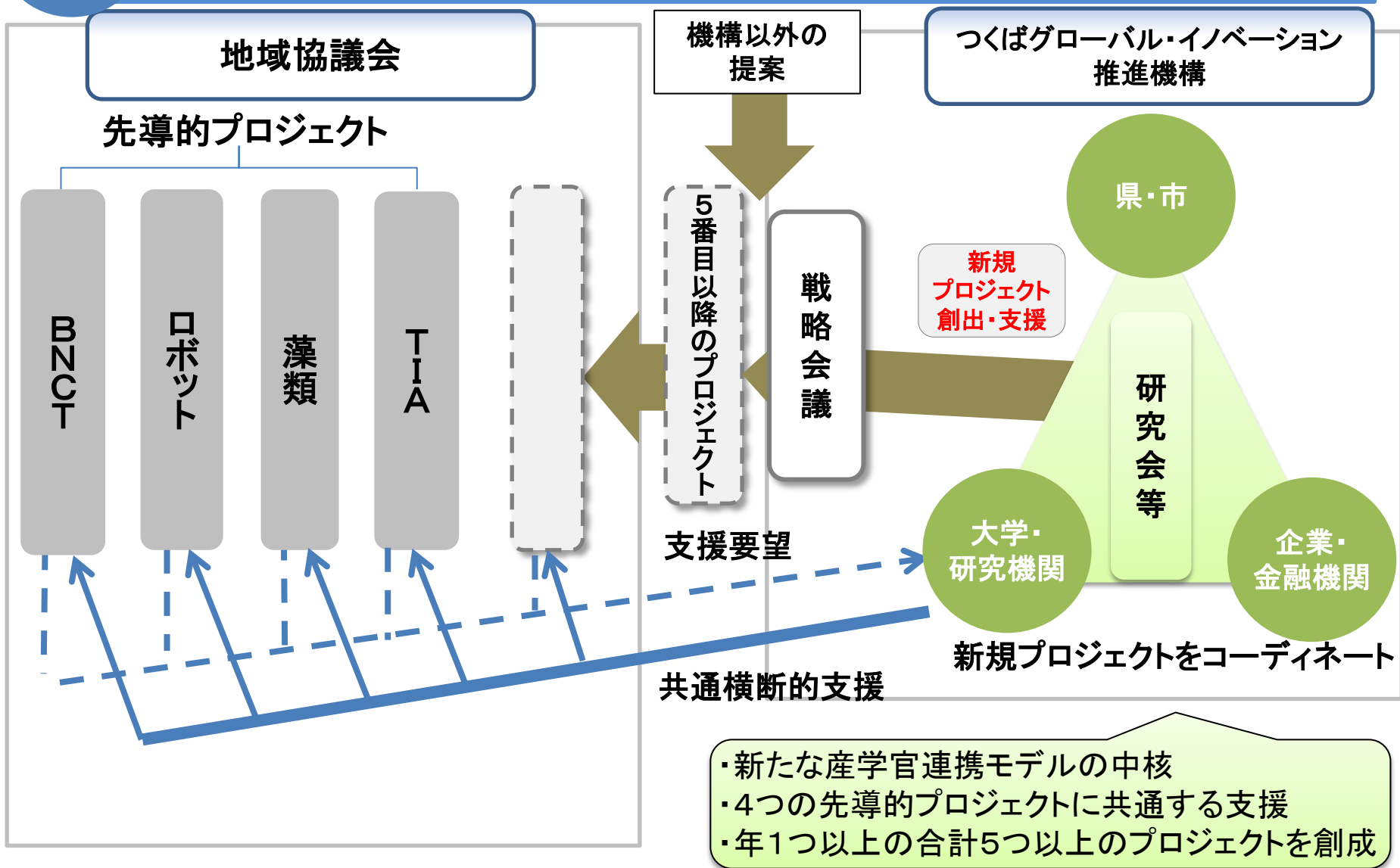
※茨城県からの委託費によるコーディネーター
補助職員(若干名)雇用予定(25年度事業)

中核機関としての つくばグローバル・イノベーション推進機構

★国際戦略総合特区の事業を軸としながら、各機関や企業との適切な役割分担や連携の下、研究学園都市全体としての協働推進体制を実現する。



つくばグローバル・イノベーション推進機構の機能 (新規プロジェクト創出・支援)



24年度事業報告及び25年度事業計画(案)

事業		24年度事業報告	25年度事業計画(案)
1	共通プラットフォーム	・生物医学資源横断探索システム構築着手 ・つくば施設・設備共用化システム構築着手	・生物医学資源横断探索システム構築 ・つくば施設・設備共用化システム構築 ・新規プラットフォーム構築
2	産学官連携・事業に向けた専門的支援	・新たな産学官連携マッチング事業着手 ・弁護士及び弁理士による知財相談の試行	・新たな産学官連携マッチング事業 ・フューチャーセッション事業 ・弁護士及び弁理士による知財相談
3	国際化推進	・外国人ワンストップ生活支援サイト着手 ・案内板等の多言語化着手	・外国人ワンストップ生活支援サイト構築 ・外国人研究者等生活支援強化事業 ・案内板等の多言語化 ・海外外国人向け包括的PR用パンフレット作成 ・外国人向け季刊ニュースレター発行 ・海外研究機関等に対するアンケート調査
4	人材育成・活用	・つくば先端機器共用施設連携ワークショップ共催等(若手研究者等の参加による人材育成)	・シンポジウム開催
5	情報共有・発信	・ホームページ及びパンフレット作成	・ホームページの多言語化及びアップデート ・パンフレット改訂・増刷 ・特区PRグッズ作成 ・特区ロゴマーク作成

※24年度及び25年度を併せて約3～4億円(人件費を含む)

つくばグローバル・イノベーション推進機構の 機能（共通横断的下支え）1/3

① 共通プラットフォームの構築

- ★つくばの研究資源を見える化することでイノベーションが生まれやすい環境を整える。
- ★平成27年度までに8つ以上のプラットフォームを整備。
- ★現在、以下の4つのプラットフォームの運用・開発が進行中。

●つくば サイエンス アクティビティ (TSA)

- ・筑波学園都市内の研究情報検索システム <http://tsa.tulips.tsukuba.ac.jp/tsa/>
- ・平成24年11月試験公開。
(参画機関: 産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、筑波大学)

●生物医学資源データベース

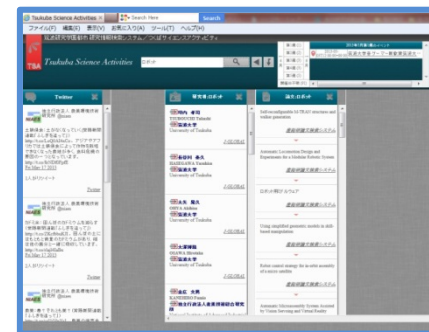
- ・平成25年8月試験公開予定。
(参画機関: 医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター、農業生物資源研究所、理化学研究所筑波研究所、筑波大学)

●施設・設備共用データベース

- ・平成25年8月試験公開予定。
(参画機関: 高エネルギー加速器研究機構、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、筑波大学)

●つくば発シーズのビジネス化

- ・シーズ・ニーズマッチングイベントの開催(平成25年6月25日)
(参画機関: 高エネルギー加速器研究機構、国立環境研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、防災科学技術研究所、筑波大学)
- ・つくばのシーズを活用しながら、ニーズ寄りのイベントを目指す。



▲ つくば サイエンス アクティビティ

② 専門的支援体制

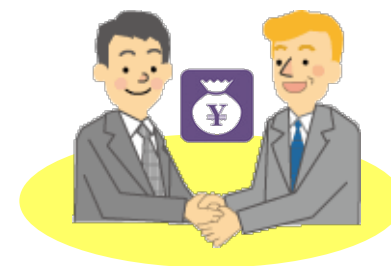
●法律・知財関連支援

- ・弁理士・弁護士による知的財産の保護・活用等に関する相談事業を実施。
(※内部に知財専門部門を有しない比較的小規模な研究機関等が対象)



●つくばIPファンド(仮称)との連携

- ・研究成果を生かしたベンチャーに対する資金や経営人材のサポートを促進する。



●新たな産学官マッチング事業・フューチャーセッション事業

③国際化の推進（※国際的研究・生産活動拠点としての環境整備）

●海外からの企業・研究者誘致

- ・海外向けPR戦略の立案
- ・ニュースレター等による海外へのTSUKUBAの情報発信・PR（案）
→ 特区や筑波研究学園都市に関する情報のほか、市内在住の研究者自身・その家族による生の声等も発信
- ・海外の研究機関（研究者）に対するヒアリング調査（案） → なぜ日本に来ないのか？ どうすればつくばを選ぶのか？を探る。



●在住外国人へのサポート（※主に留学生・研究者及びその家族）

- ・ワンストップ生活情報サイトの構築
- ・多言語看板
- ・在住外国人に対するニーズ調査（案）
- ・各機関の外国人支援部門との連携による外国人研究者等の生活支援の強化・効率化



④人材育成・活用

●専門的ノウハウを有した人材の活用

- ・研究コーディネーター、サイエンスコミュニケーター等の専門的人材活用によるハブ機関としての役割強化及び各プロジェクト推進の支援

●各機関による人材育成の支援

- ・連携大学院制度、寄附講座、セミナー、インターンシップ等、各機関による人材育成プログラムの周知・情報提供

●シンポジウムの開催



つくばナノテク拠点産学独連携人材育成プログラム特別セミナーの様子

⑤情報の集約・発信

●筑波研究学園都市に関する情報集約（案）

- ・関係機関との連携強化による情報集約（※機構の情報ステーション化）

→ 各研究所等の広報部門との連携、特区関連プロジェクトの最新状況の把握、研究成果、受賞・顕彰など外部からの評価等に関するニュースの収集、他特区との情報交換ほか

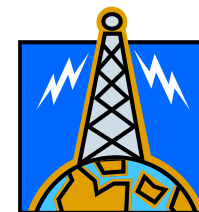


●ホームページ・パンフレット等による集約した情報の発信（案）

- ・関係機関との情報の共有化
- ・研究機関・研究者向けの情報発信
- ・企業・経済界向けの情報発信
- ・一般市民向け（児童・生徒を含む）向けの情報発信
- ・海外向けの情報発信

→ TSUKUBAのブランド化・PRを図る広報物／HPコンテンツの作成
（例：季刊ニュースレター、“Science City Tsukuba”のPRパンフレット等）

- ・ワークショップの開催、各展示会への出展
- ・ワンストップ窓口機能の整備（※機構の法人格取得等を視野に入れて）



●特区ロゴマークの作成

平成24年度の主な行事実績

- ・平成24年 6月 6日(水) **筑波大学附属病院国際戦略総合特区に関する臨床シンポジウム**
(於 筑波大学医学群臨床講義室A)
- ・平成24年 7月 7日(月) **ナノテク分野を中心とする国際ハイレベルフォーラム**
～10日(火) **(GIANT High Level Forum 2012)** (於 フランス・グルノーブル市)
- ・平成24年 8月27日(月) **経団連「経済活性化シンポジウム」** (於 経団連会館)
- ・平成24年10月17日(水) **Japan Robot Week 2012(つくば国際戦略総合特区フォーラム)**
～19日(金) (於 東京ビッグサイト)
- ・平成25年 2月15日(金) **AAAS(米国科学振興協会)年次大会ジャパンプースへの出展**
～17日(日) (於 米国・ボストン市)
- ・平成25年 3月22日(金) **つくば先端機器共用施設連携ワークショップ2013**
(於 東京ステーションコンファレンス)



【写真左】

フランス・グルノーブル市に立地するナノテク拠点・MINATECでの国際ハイレベルフォーラム

【写真右】

AAASジャパンプースにおける特区関連展示

平成25年度の主な行事予定

- ・平成25年 6月25日(火) **産学官マッチング・デイ2013** (於 つくば国際会議場)
- ・平成25年 6月26日(水) **産総研TIA連携棟オープニングセレモニー** (於 産業技術総合研究所)
※祝賀会における特区紹介ポスターセッション実施予定
- ・平成25年 7月20日(土) **産総研つくばセンター 一般公開** (於 産業技術総合研究所)
※一般来場者向けの特区プロジェクト紹介展示実施予定
- ・平成25年10月14日(月)
~15日(火) **第2回ハイレベルフォーラム** (於 米国・パサデナ市)
- ・平成25年11月 5日(火)
~ 6日(水) **国際ナノテク産業都市フォーラム** (於 韓国・大田市)
- ・平成25年11月 6日(水)
~9日(土) **2013国際ロボット展** (於 東京ビッグサイト)
- ・平成25年11月12日(火) **筑波研究学園都市50周年記念事業・筑波大学開学40+101周年記念事業** ※特区関連ワークショップ開催予定 (於 つくば国際会議場)
- ・平成26年 2月13日(木)
~17日(月) **AAAS(米国科学振興協会)年次大会ジャパンプースへの出展**
(於 米国・シカゴ市)

(メモ)